

令和 5 年度防府市図書館サービス振興基本計画実施状況の委員評価

記号の見方：●課題、○評価、◇要望、◎質問 ※その他

1. 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館	2. 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館	3. 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館
●図書資料の館外個人貸出冊数は人口一人当たり 5 冊以上が望ましい。 ○幅広い年代に合わせた資料が充実しており、市民のニーズに応えている。 ○ホームページはとても分かりやすいレイアウトになっていて、使いやすい。 ○インスタグラムを開設されたが、リアルタイムでの投稿をスマホで手軽に見ることができてとてもよい。特に、今回の「子ども読書フェスティバル」の子どもたちの楽しそうな様子がリアルに伝わった。今後も、フォロワーのいいね！が多くつくように望む。 ○おはなしの部屋の再開及びスチール製紙芝居架の設置は喜ばしい。 ○「安全・危機管理業務」の件ですが、AED や防犯カメラの点検を毎日開館前に実施されるのは素晴らしい。 ○令和 4 年度 10 月に開設した電子図書館によって、図書館を利用しにくい人々への新たなサービスを提供できたと言える。 ○電子図書館サービスの利用は順調で評価できる。電子書籍には、予約がついている本が多くあり、利用者のニーズに合った選書がされていると思う。 ○小学校の生活科の授業において、移動図書館車の臨時出張サービスを行ったり、小中学校で電子図書館利用のための利用カードを作成したりするなど、児童生徒の図書館利用促進を行われたことは素晴らしい。無理のない範囲で継続していただきたい。 ○貸し出しランキングを見ると、電子図書館は小、中学生が多く利用しているのではないかと感じる。 ○移動図書館の臨時出張サービスを評価する。 ◇紙芝居コーナーは少し工夫され少しわかりやすくなったが、もう少し探しやすくなるとよい。 ◇地震に対する本棚の安全確保を望む。 ◇学校での図書館利用カード作成は、利用者増につながっているなので、他の学校（特に中学校）にも進めてほしい。 ◇小学生の電子図書利用が増加したと聞く。なかなか市中の図書館に来られない小学生に、もっと電子図書の普及と利用を促してほしい。 ◇本年度も電子図書館体験会を開催して欲しい。 ◇「防府史料」などの郷土デジタルコレクションの公開は、防府図書館の魅力、強みだと思う。さらなる提供の充実を期待する。 ◇ベテラン職員による新人職員への講習を期待する。 ◇図書館員によるレファレンスサービスをもっと周知し窓口を広げてほしい。 ◎最近、周防灘を中心にした地震があり、防府市も震度 4 を観測したが、建物の三階の揺れはどうだったのか。 ◎図書館単独の消防避難訓練を行い、ルルサス防府全体の避難訓練に参加されているとのこと	○ボランティア活動が継続して行われていることがすばらしい。活動される方々にとっても個が高まる場となっている。 ○例年通り、防府市子ども読書フェスティバルや図書館まつりが開催されたことは評価に値する。 ○コロナ 5 類となり、人数制限なく「子ども読書フェスティバル」や「図書館まつり」が無事開催され、良かった。 ◇防府市子ども読書フェスティバルや防府図書まつり等のイベントは、家族で楽しめるイベントで、多くの人に参加していただけるとよいと思う。 ◇図書館まつりの高校生のボランティアは活動の助けになるため、6 年度も実施を希望する。 ◇『図書館年報』令和 5 年度の中に、高校生がイベントなどに参加したことが記載されていないように思う。確か図書館まつりには参加されていた。高校生が参加する場合は、ただのお手伝いというのではなく、自分たちで企画して参加するのがよいのではないか。 ◇子ども読書フェスティバルや図書館まつりは、職員とボランティアの協働でこれからも続けてほしい。去年は、高校生ボランティアが協力してくれてうれしい。 ◇図書館ボランティア養成講座の参加者が増えるような内容にしてほしい。 ◇こどもボランティア講座を開催してはどうか。 ◇高校生ボランティアの定着と活動範囲の拡大を期待する。「ボランティア養成講座」の参加者増加を望みたい。 ◎防府図書館だけに限られたことではないが、図書館ボランティア団体及び生涯学習グループのメンバーの高齢化は深刻な問題である。課題に「図書館ボランティア団体及び生涯学習グループへの新規加入者の確保」が掲げられているが、新規加入者は確保できたのか。	●「防府図書館利用者懇談会」については、参加者があまり多いとは言えない。 ○学習グループとの協働により、地域文化の向上に尽力されている。 ○ビブリオバトルは、定着していて、大人も子どもも同じ土俵に参加できるイベントなので、これからも楽しみにしている。 ○子ども読書フェスティバルで、よしながこうたくさんのワークショップは、子どもたちと講師が生き生きと盛り上がり子ども参加型で良かった。サイン会では一人一人子どもと会話されコミュニケーションを取られた。 ○「子ども読書フェスティバル」を子ども参加重視のイベントとして開催し、特にワークショップが大いに盛り上がったのは喜ばしい。 ○「防府図書館利用者懇談会」を開いて、利用者の意見などを聞く機会を毎年継続されていることは素晴らしいと思う。 ○◇例年通り、数多くの展示、数多くの講座などを開催されているのには頭がさがる。図書館職員みなさんの負担にならないように留意しつつ、これからも続けてほしい。 ○月例資料展示コーナー・こどもカウンター前・ミニ資料展示・等に毎月多くの資料展示が年間を通してあり、図書館員の努力が評価できる。評価が A でもよい。 ○展示コーナーが充実していて、思わず手に取らせる工夫があり素晴らしいと思う。（バラエティー豊か） ○地域の交流の場面が減り、意識も低下しているのではないかと感じるので、図書館がその一翼を担っていただけるのはとてもよいことだと思う。 ○他団体主催行事への出張展示を評価する。 ◇図書館利用者懇談会では、もっと参加者の意見をきく時間を増やしてほしい。 ◇絵本の読み聞かせやワークショップ等のイベントを周辺部でも(地域のイベントにあわせて) 行ってはどうか。

ですが、利用者も一緒に訓練をされたのか。 ◎電子図書館の利用状況は。 ※所蔵冊数への対処、閲覧も含めて、警備等の問題はあるが、少子化で空いた学校の空教室等の活用は考えられないだろうか。		◇各ボランティアサークルへの若い年齢層の勧誘が望まれる。 ◇図書館のホームページの行事予定は休館日だけではなく、利用するいろんな団体の行事も入れてほしい。 ◇各サークルの周知のために、生涯学習講座や各サークルの集まりの表示を研修室前などにもっと大きく表示（看板などで）してほしい。 ◎懇談会では、どのような意見が出ているのか。それに対して、どのような対応をされたのか。
---	--	--

4. 地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館	5. 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館	6. 子どもたちの読書活動を進めていく図書館
○郷土紙芝居は、広く市民が利用できるようになって良かった。 ○郷土紙芝居の複製、製本等の新たな試み及び防府資料 73 として「周南先生文集初編」刊行を評価する。 ○例年通り、防府史料の刊行、公開されたことは、十分に評価に値すると思う。郷土紙芝居を複製・製本され、郷土資料として貸出できるようにされたことは素晴らしい。A の評価でもよいのでは。 ○地域の歴史や文化に係る事業を積極的に行うことは、防府市立防府図書館の特色のひとつであり、強みである。 ○姉妹都市などの交流や展示により、市民への啓蒙がなされている。 ◇郷土紙芝居の複製の内容・色彩共に充実しているので多くの貸し出し上演を希望する。 ◇地域の歴史を案外と知らないので、次世代へ語りつぐためにも、ぜひ今後も展示していつてもらいたい。（上山満之進や三哲文庫等） ◇上山満之進と三哲文庫の関わりを PR して欲しい。（特に子ども） ◇防府市は歴史がある街なので、社会見学や一日研修等のアドバイスをいただけると助かる学校もあると思う。 ◇郷土史、郷土文学の職員研修充実を期待する。 ◎地域（郷土）資料収集業務は、具体的にどのような業務なのか。 ◎「防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努められた」とのことだが、「独自の特徴的なコレクション」とは、どのようなものか。	○学校図書館との連携がされていて、学校にとってはとてもありがたい。 ○学校図書館とのネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務を継続・推進したこと、また小学校留守家庭学級を対象とした貸出のための選書サービスを実施されたことが評価できる。 ○ソラールや山頭火ふるさと館との連携業務はとても良いと思う。 ○ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリーの一環で、防府市出身のチェロ奏者の音楽会を開催されるなどの活動は素晴らしい。 ○ネットワーク・システム活用による学校支援図書や学校司書研修の機会提供など学校図書館支援を評価する。 ○例年通り、防府市文化振興財団内連携事業を開催されたことは、防府図書館ならでの特徴のひとつで評価できる。 ○◇「ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリー」の新たなイベント開催を評価したい。特に詩と音楽のミニコンサート継続を望む。文化振興財団内の連携によるイベント開催は本市の特色となる。 ◇各地域でネットワークがより活用されるための PR に努めてほしい。 ◇生徒が読書に積極的に取り組むことができるよう、ご支援をお願いしたい。 ◇学校支援図書貸出件数が多いので、連携をし業務がスムーズに行えるようにしてほしい。 ◇図書館での音楽会は続けてほしい。子ども向けも良いのではないか。 ◇防府市文化財郷土資料館や他施設とも進めてほしい。	●調べる学習コンクールへの理解を学校の先生に広げる必要があると思う。 ○子どもたちの意欲を高める様々なイベントが計画的に実施されていることがすばらしい。 ○◇「チャレンジ！調べる学習」、「読書感想文教室」などの開催は防府図書館の特徴のひとつといえる。図書館職員の方にはかなり負担になるかと思うが、継続していただきたい。 ○◇「局ノ内自治会」「西須賀保育所」などに出張して、絵本の読み聞かせを行うことは素晴らしい。今後も、図書館職員の方にはオーバーワークにならない程度に、出張講座、出張イベントを行っていただきたい。 ○「図書館を使った調べる学習コンクール」は上山満之進賞を含め、優秀な作品が応募されており大変喜ばしい。 ○図書館職員の資質向上がみえるブックトークの継続を評価する。 ○おはなし会も定期的に開催され良いと思う。 ○「読書感想文教室」等参加者も多く評価できる。 ◇小学校の社会見学時に図書館を入れてもらうように要望しては如何か。 ◇市内の全ての小中学生が自由に抵抗なく図書館を利用できるように見学・体験を充実させてほしい。 ◇中学生の図書館活動参加を促す図書館でのクラブ活動を期待したい。 ◎「子ども図書館員」の中で「ライぶらり」の体験をされたと聞いたが、どのような成果があったか。 ※子どもの頃から読書に親しむことが、文章を読み解く力や、他人の気持ちをはかる力につながると思う。

7. 障害者や高齢者に優しい図書館

- シニア層に向けて、電子図書館などの利用 PR を積極的にする必要があると感じる。
 - ◇郷土作家 4 名の著作を収めたカセット音訳テープをデジタルデータに変換、編集したうえで電子図書館の音声資料として順次登録中とのこと、コンスタントに利活用されることを期待する。そのためには、広報が必須だと思う。
 - 前年度に引き続き、対面朗読や国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスの利用がなかったということだが、さらなる障害者や高齢者への周知を期待する。
 - インクルーシブな取組が広がることで、その社会の中で生活する子どもたちの意識も自然と高まると思う。
- 高齢者や障害者に優しい図書館として、とても充実してきた。さらなる充実を望む。
- 計画どおり実施されていて、十分な配慮がされている。
- 対面朗読、音訳などがされており、様々な方のニーズにそった取組が行われている。
- 郷土作家収録のカセット音訳テープのデジタル化による電子図書館への登録など新たな取組を評価する。
- ◇パソコンが使える高齢者は、増えているので有効な方法をさがってほしい。
- ◇図書館の位置や場所がわかりにくく利用しにくいのではないか。ルルサス 2 階からの階段入口、図書館への導入案内、また階段にも図書館アピールの展示があるとよい。
- ◇認知症関連など高齢者対象サービスの新企画スタートを望む。
- ◇今後ともサービスの周知を継続してほしい。
- ※障害のある人に図書館を利用してもらうために、例えば「手話通訳のボランティア一日デー」を企画してはどうか。

第2次防府市図書館サービス振興基本計画 実施状況評価表

資料2

【令和5年度 図書館自己評価】

1 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館			
(1)市民の日常生活、学習活動に寄与する、質・量ともに充実した資料を持つ図書館			
R5年度 事業計画	①資料収集業務 ・「防府図書館資料収集要綱」に基づく適正な選書・収集と質・量両面の充実 ・図書購入目標冊数10,000冊。内一般7,700冊、児童2,200冊、郷土関係100冊 ・視聴覚資料購入目標点数130点。内CD100点、DVD30点 ・電子書籍購入目標冊数500冊 ②資料分類・目録整備業務 ・迅速・正確な資料の組織化(分類・目録)、装備と分かりやすいOPAC(オンライン閲覧目録)の提供 ③書架管理・蔵書点検業務 ・書架の整理整頓、全開架資料の蔵書点検の実施(10月・3月) ④資料提供業務 ・正確・迅速な貸出、返却、登録、予約・リクエスト受付業務の推進		
事業実施 状況	・令和5年度館外個人貸出者数135,478人、館外個人貸出冊数510,519冊 ・電子図書館登録者数44,090人、電子書籍貸出冊数11,060冊 ①資料収集業務 ・「防府図書館資料収集要綱」に基づいて適正な選書・収集を実施 ・図書購入冊数8,964冊。内一般6,119冊、児童2,744冊、郷土関係77冊 ・視聴覚資料購入点数130点。内CD99点、DVD31点 ・電子書籍購入冊数896冊 ②資料分類・目録整備業務 ・迅速・正確な資料の組織化(分類・目録)、装備と分かりやすいOPAC(オンライン閲覧目録)を提供 ③書架管理・蔵書点検業務 ・書架の整理整頓、全開架資料の蔵書点検を実施(10月3日・4日・5日、3月5日・6日・7日) ④資料提供業務 ・貸出、返却、登録、予約・リクエスト受付業務を迅速・適正に遂行		
課題等	閉架書庫の収容能力を超える所蔵冊数への対処		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

(2) 老若男女を問わず、様々な立場の人が、誰でも気軽に楽しく利用できる図書館

R5年度 事業計画	①コンピュータシステム管理業務 ・円滑な運用によるサービスの強化 ・Web上での検索・予約・貸出期間延長、読書手帳、My本棚、読書マラソン等の機能の活用 ②情報発信(広報)業務 ・ホームページの整備、充実 ・「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」の発行(月刊)、市広報「ほうふ」・防府市文化振興財団広報紙「イベントアイ」・防府市文化振興財団広報紙「メールマガジン」・地域情報誌「ほっぷ」への定期的な記事の掲載、「防府市メールサービス」への随時の記事の掲載、「インスタグラム」への投稿、地域コミュニティーFMラジオやケーブルテレビ等の活用の推進 ③図書館年報作成業務 ・「令和4年度図書館年報」(一般用・子ども用)の発行(5月31日) ④サービス環境整備・安全対策・危機管理業務 ・施設・設備・備品の日常点検と安全で快適な利用環境の整備、的確な状況把握と防犯管理、危機管理体制の改善と整備(定期避難訓練2回実施) ⑤利用マナー啓発業務 ・「マナーアップキャンペーン」「グッドマナーチャレンジ」(7月1日～8月31日)の実施		
事業実施 状況	①コンピュータシステム管理業務 ・Web上での検索・予約・貸出期間延長、読書手帳、My本棚、読書マラソン等についてホームページ上で紹介 ②情報発信(広報)業務 ・ホームページの情報を随時更新し、利用者が必要とする情報を適宜わかりやすく提供 ・「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」を毎月発行、「行政関係図書紹介」を季刊で発行、行事関係チラシ等をその都度作成するとともに、市広報「ほうふ」・防府市文化振興財団広報紙「イベントアイ」・地域情報誌「ほっぷ」へ定期的に記事を掲載、「防府市メールサービス」・防府市文化振興財団広報「メールマガジン」へ随時記事を掲載、地域コミュニティーFMラジオ(FMわっしょい「防府市からのお知らせ 情報モリモリ」)に毎月第2・4木曜日に出演、山口ケーブルテレビジョンのニュース番組「まちかどNEWS」(5月19日)に出演 ・「インスタグラム」で行事等のお知らせや図書館のPR、本や作家に関するミニコラムなどの情報を発信 ③図書館年報作成業務 ・令和4年度「図書館年報」(一般用)・「数字で見る防府図書館」(子ども用)を発行(5月31日) ④サービス環境整備・安全対策・危機管理業務 ・設備・備品の点検と修理を随時実施し、恒常的で計画的な清掃業務を実施。 ・図書館まつり実行委員会より寄贈をされた「スチール製紙芝居架」2台を紙芝居コーナーに設置 ・保安・警備・防犯対策の一環として、施設管理会社との協議を毎月開催 ・AEDや防犯カメラの点検を毎日開館前に実施 ・ルルサス消防訓練(10月19日)に参加、図書館単独の避難訓練(10月5日、3月7日)を実施 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、受付カウンターのビニールシート壁及び入口の体表検知カメラと足踏み式消毒スタンドの設置を継続、5月よりお話のへやと準備室を使用可とした ⑤利用マナー啓発業務 ・「マナーアップキャンペーン」を実施して(7月5日～8月31日)、「グッドマナーチャレンジカード」を764枚配布し、達成者は98人		
課題等	館内環境整備(閲覧用椅子の買い換え) ※閲覧用椅子は順次更新中		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

(3) 図書館から遠い所に住んでいる人にも、サービスできる図書館			
R5年度 事業計画	①移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務 ・移動図書館車「わっしょい文庫」に常時3500冊の図書を積載し、6コース37ステーションを2週間に1回の周期で巡回 ・コース、ステーション等の半年毎の見直し ・地域イベント等に合わせた移動図書館車臨時出張サービスの実施 ②電子図書館運営業務 ・インターネットを利用する電子図書館システムの利用促進		
事業実施 状況	①移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務 ・移動図書館車「わっしょい文庫」に常時3,500冊の図書を積載し、6コース37ステーションを2週間に1回の周期で巡回 ・各コース、ステーションの利用状況を分析 ・大道小学校で開催された「大道まつり」(11月12日)、玉祖小学校2年生の生活科の授業(11月13日)において、移動図書館車の臨時出張サービスを実施 ②電子図書館運営業務 ・電子図書館を管理運営、システムを適切に管理運営し、普及活動を推進 ・小野中、右田小学校で電子図書館利用のための利用カード作成があり、2月3月の貸出冊数が増加		
課題等	移動図書館車と電子図書館の利用促進		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B
(4) 調査・研究・読書相談などに、的確に対応できる図書館			
R5年度 事業計画	①レファレンス(調査研究相談・読書相談)業務 ・調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスの推進 ・国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧業務の利用促進と「レファレンス協同データベース」の活用 ・他の図書館や機関等に問い合わせたり案内したりするレフェラルサービスの推進 ・レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー(テーマ別資料利用案内)等の充実 ・レファレンス研修、フロアワークの強化 ②図書館資料の複写サービス業務 ・著作権法や防府市手数料条例に基づく適正な複写サービスの実施		
事業実施 状況	①レファレンス(調査研究相談・読書相談)業務 ・調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスを実施 ・子どもカウンターにおいて資料利用案内・読書案内を実施 ・国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」について、チラシやホームページで紹介するとともに、「レファレンス協同データベース」を活用してのサービスを実施 ・他の図書館や機関等に問い合わせたり案内したりするレフェラルサービスを実施 ・レファレンス事例集や新着図書案内・パスファインダー(テーマ別資料利用案内)等を作成・整備 ・利用者へのサービスをより充実させるため、レファレンス研修に参加 ②図書館資料の複写サービス業務 ・著作権法や防府市手数料条例に基づく適正な複写サービスを実施		
課題等	経験の浅い職員のレファレンス能力の向上		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 1-(1) 図書資料の館外個人貸出冊数は人口一人当たり5冊以上が望ましい。
- 1-(1) 幅広い年代に合わせた資料が充実しており、市民のニーズに応えている。
- 1-(2) ホームページはとても分かりやすいレイアウトになっていて、使いやすい。
- 1-(2) インスタグラムを開設されたが、リアルタイムでの投稿をスマホで手軽に見ることができてとてもよい。特に、今回の「子ども読書フェスティバル」の子どもたちの楽しそうな様子がリアルに伝わった。今後も、フォロワーが多くつくように望む。
- 1-(2) おはなしの部屋の再開及びスチール製紙芝居架の設置は喜ばしい。
- 1-(2) 「安全・危機管理業務」に関して、AEDや防犯カメラの点検を毎日開館前に実施されるのは素晴らしい。地震に対する本棚の安全確保を求む。
- 1-(2) 紙芝居コーナーは少し工夫されわかりやすくなったが、さらに探しやすくなるとよい。
- 1-(3) 令和4年度10月に開設した電子図書館は、図書館を利用しにくい人々への新たなサービスを提供できており、利用は順調で評価できる。電子書籍には、予約がついている本が多くあり、利用者のニーズに合った選書がされている。貸し出しランキングを見ると、小・中学生が多く利用しているのではないかと感じる。なかなか市中の図書館に来られない小学生に、もっと電子図書の普及と利用を促してほしい。中学校にも進めてほしい。
- 1-(3) 今後も電子図書館体験会を開催して欲しい。
- 1-(3) 小学校の生活科の授業において、移動図書館車の臨時出張サービスを行ったり、小中学校で電子図書館利用のための利用カードを作成したりするなど、児童生徒の図書館利用促進を行われたことは評価できる。無理のない範囲で継続を希望する。
- 1-(3) 「防府史料」などの郷土デジタルコレクションの公開は、防府図書館の魅力、強みである。さらなる提供の充実を期待する。
- 1-(4) ベテラン職員による新人職員への講習を期待する。
- 1-(4) 図書館員によるレファレンスサービスをもっと周知し窓口を広げてほしい。

2 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館

(1) 様々な図書館事業を利用者と協働して行い、学習交流の場、コミュニティセンターとしての機能を持つ図書館

R5年度 事業計画	①ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務 ・第12回「防府市子ども読書フェスティバル」(5月28日)、第33回「防府図書館まつり」(10月29日)を、各実行委員会、ボランティア団体等と協働で開催		
事業実施 状況	①ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務 ・第12回「防府市子ども読書フェスティバル」を5月28日(参加者数107人)に、第33回「防府図書館まつり」を10月29日(参加者数1,177人)に、各実行委員会、ボランティア団体等と協働で開催		
課題等	ボランティア団体及び生涯学習グループへの新規加入者の確保		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

(2) 学習ボランティアや、障害のある利用者のためのボランティアが、いきいきと楽しく活動できる図書館

R5年度 事業計画	①ボランティア活動推進業務 ・「防府図書館ボランティア連絡会議」の開催(1月) ・「図書館ボランティア養成講座」の開催(2月頃4回シリーズ)		
事業実施 状況	①ボランティア活動推進業務 ・「防府図書館ボランティア連絡会議」を1月25日に開催し、現状と課題について意見を交換(参加者数14人) ・「図書館ボランティア養成講座」を2月1日(参加者数6人)、2月15日(参加者数12人)、2月22日(参加者数6人)、2月26日(参加者数16人)に開催		
課題等	新たなボランティアの養成とスキルアップ		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 2-(1) ボランティア活動が継続して行われていることが素晴らしい。活動される方々にとっても個が高まる場となっている。
- 2-(1) 例年通り、防府市子ども読書フェスティバルや図書館まつりが開催されたことは評価する。これらのイベント等は、家族で楽しめるイベントで、多くの人に参加していただけるとよい。
- 2-(1)(2) 『図書館年報』令和5年度の中に、高校生がイベントなどに参加したことが記載されていないように思う。高校生のボランティアは活動の助けになるため、今後も実施を希望する。ただ、高校生が参加する場合は、お手伝いというのではなく、自分たちで企画して参加するのがよいのではないかと。ボランティアの定着と活動範囲の拡大を期待する。
- 2-(1) 子ども読書フェスティバルや図書館まつりは、職員とボランティアの協働でこれからも続けてほしい。
- 2-(2) 図書館ボランティア養成講座の参加者が増えるような内容にしてほしい。
- 2-(2) こどもボランティア講座を開催してはどうか。

3 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館

(1) 様々な図書館行事を積極的に行い、地域の文化発展に貢献する図書館

R5年度 事業計画	①イベント・懇談会業務 ・「トークイベント」第12回「防府市子ども読書フェスティバル」(5月28日)において、よしながこうたくさんによる講演会を開催 ・「防府図書館ビブリオバトル」の開催(11月・3月の2回) ・「月いちキネマ」の開催(毎月1回) ・「大人のくらし塾」(9月・3月の2回) ・「防府図書館利用者懇談会」の開催(11月) ②資料展示・展覧会業務 ・展示ケース・中央カウンター前・児童カウンター前での月例資料展示、新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示の定期的な実施 ・新聞・雑誌コーナー壁面での市民の作品展覧会の開催		
事業実施 状況	①イベント・懇談会業務 ・第12回「防府市子ども読書フェスティバル」(5月28日開催)において、絵本作家よしながこうたく氏を講師に迎え、絵本の読み聞かせやワークショップを開催(参加者数73人) ・「防府図書館ビブリオバトル」は、第1回を11月5日(参加者数18人)、第2回を3月10日に開催(参加者数24人) ・「月いちキネマ」を毎月1回開催 ・シニア向け実用講座「大人のくらし塾」の前期講座として9月29日・30日に「電子図書館体験会」(参加者数6人)を、後期講座として1月26日・27日に「絵手紙講座」(参加者数21人)を開催 ・「防府図書館利用者懇談会」を11月30日に開催(参加者数8人) ②資料展示・展覧会業務 ・展示コーナー・中央カウンター前・児童カウンター前での月例資料展示を36回、新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示を55回実施 ・ブラウジングコーナー壁面等での展示を8回実施 ・「第2回防府福祉まつり」で、「障害者サービス紹介」出張展示 ・「第30回生涯学習フェスティバル」で「図書館のご利用」出張展示		
課題等	各行事の参加者を増加させる		
自己評価	各行事とも概ね計画通り開催、ワークショップは大好評	評価	A

(2) 生涯学習グループ活動を奨励し、その育成を図る図書館

R5年度 事業計画	①生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務 ・生涯学習グループへの機会・場・設備・資料等の提供と活動支援の推進		
事業実施 状況	①生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務 ・生涯学習グループの活動拠点としての図書館の活用を推進するため、研修室他、集会スペースの利用許可等の業務を適正に行い、機会・場・設備・資料等を各団体に提供		
課題等	生涯学習グループの数や会員数の増加		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 3-(1) 「防府図書館利用者懇談会」については、参加者があまり多いとは言えない。
- 3-(1) 学習グループとの協働により、地域文化の向上に尽力されている。
- 3-(1) ビブリオバトルは、定着していて、大人も子どもも同じ土俵で参加できるイベントなので、これからも楽しみにしている。
- 3-(1) 子ども読書フェスティバルで、よしながこうたかさんのワークショップは、子どもたちと講師が生き生きとして大いに盛り上がり、子ども参加型で良かった。サイン会では一人一人子どもと会話されコミュニケーションを取られた。
- 3-(1) 「防府図書館利用者懇談会」を開いて、利用者の意見などを聞く機会を毎年継続されていることは評価できる。ただ、もう少し参加者の意見をきく時間を増やしてほしい。
- 3-(1) 絵本の読み聞かせやワークショップ等のイベントを周辺部でも(地域のイベントにあわせて)行っ
てはどうか。
- 3-(1) 例年通り、数多くの展示、数多くの講座などを開催されており評価できる。図書館職員の負担にならないように留意しつつ、これからも続けてほしい。
- 3-(2) 各サークルの周知のために、生涯学習講座や各サークルの集まりの表示を研修室前などに、看板などでもっと大きく表示してほしい。
- 3-(2) 各ボランティアサークルへの若い年齢層の勧誘が望まれる。
- 3-(2) 図書館のホームページの行事予定は休館日だけではなく、利用するいろんな団体の行事も入れてほしい。

4 地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館

(1) 地域(郷土)資料を、積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

R5年度 事業計画	①地域(郷土)資料収集業務 ・地域資料、特に防府市関係資料についての、特徴的なコレクション形成の推進 ・年間郷土資料収集目標冊数450冊		
事業実施 状況	①地域(郷土)資料収集業務 ・地域資料、特に防府市関係資料について情報を収集し、防府図書館独自の特徴的なコレクションを形成 ・年間郷土資料収集冊数359冊(購入冊数77冊、寄贈冊数282冊) ・郷土紙芝居の複製、製本、登録を実施、貸出可能		
課題等	郷土資料に関する出版情報収集体制の確立		
自己評価	郷土紙芝居の複製による郷土資料の充実	評価	A

(2) 地域(郷土)の歴史や文化に係る事業を積極的に行う図書館

R5年度 事業計画	①上山満之進と三哲文庫顕彰業務 ・展示室常設展示「上山満之進と三哲文庫」の展示替え ・ブラウジングコーナーでの上山満之進関連展示(9月) ②「防府史料」刊行業務 ・防府史料第73集の刊行とホームページへの掲載(3月)		
事業実施 状況	①上山満之進と三哲文庫顕彰業務 ・展示室常設展示「上山満之進と三哲文庫」の展示を随時入れ替え ・ブラウジングコーナー壁面において、パネル展示「上山満之進没後85年展」を実施(7月5日～7月31日) ②「防府史料」刊行業務 ・防府史料第73集『周南先生文集 初編 自七至八』(山県周南・著)を3月14日付けで刊行し、ホームページへ掲載		
課題等	郷土史、郷土文学に関する職員研修		

自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B
(3) 姉妹都市などの図書館との交流事業を推進し、国際理解を深めるための資料を積極的に収集・整理・保存・提供する図書館			
R5年度 事業計画	①春川市立図書館との資料交換業務 ・大韓民国春川市立図書館との資料交換と市民への提供(年1回、100冊程度交換)		
事業実施 状況	①春川市立図書館との資料交換業務 ・大韓民国春川市立図書館との資料交換協定に基づき100冊程度の資料を相互に寄贈し、 受贈した資料を広く市民に提供		
課題等	外国語、外国文化に関する職員研修		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】	
4-(1)	郷土紙芝居の複製・製本等により、郷土資料として広く市民が利用できるようになったのは評価できる。郷土紙芝居の複製の内容・色彩共に充実しており、多くの貸し出しや上演が行われることを望む。
4-(1)	防府資料73として「周南先生文集初編」刊行を評価する。
4-(2)	地域の歴史や文化に係る事業を積極的に行うことは、防府市立防府図書館の特色のひとつであり、強みである。
4-(2)	地域の歴史を案外と知らないの、次世代へ語りつぐためにも、上山満之進や三哲文庫等について、ぜひ今後も展示していただいたい。特に子どもには、上山満之進と三哲文庫の関わりをPRして欲しい。
4-(2)	防府市は歴史がある街なので、社会見学や一日研修等に関する資料提供ができるとよい。
4-(2)	郷土史、郷土文学の職員研修充実を期待する。
4-(3)	姉妹都市などの交流や展示により、市民への啓蒙がなされている。

5 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館	
(1) 学校や公民館との連携を深め、支援事業・協力事業を推進する図書館	
R5年度 事業計画	①学校図書館支援業務 ・学校図書館とのネットワーク・システムを活用した学校支援図書の利用促進 ・学校司書の研修の機会や場の提供 ②「地域文庫」「貸出文庫」・団体貸出業務 ・地域文庫・貸出文庫の利用促進
事業実施 状況	①学校図書館支援業務 ・学校図書館とのネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務(件数619件、冊数3,913冊) ・学校司書の研修の機会や場を提供 ・小学校(15校)で開催された選書会のためのリスト作成と図書貸出等、学校司書との連携を重視 ②「地域文庫」「貸出文庫」、団体貸出業務 ・市内15か所の公民館に配本所を設置、200冊の図書を3か月に1回交換 ・市内小学校(10校)に対し貸出文庫を実施 ・市内の施設・団体等の読書活動を支援する団体貸出業務を実施するとともに、小学校留守家庭学級を対象とした貸出のための選書サービスを実施

課題等	司書教諭や学校司書との更なる連携		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B
(2)他の図書館や博物館・美術館との相互協力を推進する図書館			
R5年度 事業計画	①他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務 ・他の図書館との資料相互貸借・レファレンス協力・合同研修等の推進 ・文書館・博物館・美術館との連携強化 ②本財団内連携業務 ・財団内連携推進会議の開催(随時) ・文化事業との連携推進 ・科学事業との連携推進		
事業実施 状況	①他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務 ・県内外の図書館との資料相互貸借(貸出1,149冊・借受618冊)・レファレンス協力・合同研修等を実施 ・山頭火ふるさと館の第六回自由律俳句大会のための投句箱を設置(応募期間5月1日～11月30日) ・「山頭火を学ぶ会」に講師として職員を派遣、「大正時代の俳句を読む」の講演を実施 ・山口県及び島根県の7市町村が合同で、「ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリー」を開催(10月28日～12月28日) ・ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリーの一環で、防府図書館では、防府市出身のチェロ奏者田中雅弘氏をゲストに迎え、ブラウジングコーナーにおいて「詩とともに音楽を愉しむ」と題した音楽会を開催、大好評(参加者88人) ②防府市文化振興財団内連携業務 ・財団内連携推進会議を随時開催し、連携事業について検討・協議 ・ソラール特別展「食品サンプル展～さわって、撮って、科学する！～との連携企画として「おいしそう！でも食べられない！！？食品サンプルの世界」を実施(5月3日～6月5日) ・ソラールとの連携企画「読書感想文のヒント」を実施、科学に関する課題図書について、科学館学芸員と図書館司書の視点から読書感想文を書くヒントをパネル展示するとともに資料展示 ・「紅葉どんぐり便」の受付窓口を図書館と移動図書館車に設置(11月1日～23日)		
課題等	県内外の図書館等との連携強化		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 5-(1) 学校図書館との連携がされていて、学校にとってはとても助かっている。
- 5-(1) 学校図書館とのネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務を継続・推進したこと、また小学校留守家庭学級を対象とした貸出のための選書サービスを実施されたことが評価できる。連携をし業務がスムーズに行えるようにしてほしい。
- 5-(1) ネットワーク・システム活用による学校支援図書や学校司書研修の機会提供など学校図書館支援を評価する。
- 5-(1) 各地域でネットワークがより活用されるためのPRに努めてほしい。
- 5-(1) 生徒が読書に積極的に取り組むことができるよう、ご支援をお願いしたい。
- 5-(2) ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリーの一環で、新たなイベントを開催したことを評価したい。「詩と音楽のミニコンサート音楽会」で防府市出身のチェロ奏者のイベント開催されるなどの活動は素晴らしい。継続を望む。子ども向けも良いのではないかな。
- 5-(2) 例年通り、防府市文化振興財団内連携事業を開催されたことは、防府図書館ならではの特徴のひとつで評価できる。ソラールや山頭火ふるさと館との連携業務はとても良い。
- 5-(2) 防府市文化財郷土資料館や他施設とも進めてほしい。

6 子どもたちの読書活動を進めていく図書館

(1) 子ども読書活動推進を図るための研究と事業を、積極的に行う図書館

R5年度 事業計画	①子ども読書活動推進業務 ・「子ども図書館員」の開催(7月、8月に1回ずつ) ・「第11回防府市図書館を使った調べる学習コンクール」の防府市教育委員会との共催 ・「チャレンジ！調べる学習」(7月、8月に1回ずつ) ・「読書感想文教室」の開催(7月～8月) ・「おはなし会」の開催(家庭の日・クリスマス) ・職場体験・図書館見学等の奨励 ・公共施設等での出前講座・出張イベント等の開催		
事業実施 状況	①子ども読書活動推進業務 ・「子ども図書館員」を7月31日と8月7日に開催(参加者数18人) ・「防府市図書館を使った調べる学習コンクール」を防府市教育委員会と共催(応募作品数:小学生32点・中学生4点) ・「チャレンジ！調べる学習」を7月2日と7月23日に開催(参加者数12人) ・「読書感想文教室」を7月29日、30日に開催(参加者数19人) ・「さんさんおはなし会」を毎月第3日曜日に開催 ・「クリスマスおはなし会」を12月17日に開催(参加者数25人) ・職場体験・図書館見学等を受入(職場体験:12件93人、図書館見学:7件434人) ・「局ノ内自治会」(6月24日)、防府市宮市福祉センター(8月9日)、「えんしん幼稚園」(9月21日)、西須賀保育所(3月11日)に出張して、絵本の読み聞かせを実施		
課題等	調べる学習コンクールへの出品者数の増加		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

(2) 子ども読書活動推進のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

R5年度 事業計画	①ボランティアとの連携・協働業務 ・ボランティアとの連携・協働の推進 ・ボランティア主催行事・研修等における図書館職員のブックトーク等の実施		
事業実施 状況	①ボランティアとの連携・協働業務 ・「おはなしでんしゃ」のおはなし会(5月24日)、「利用者サークル協議会」の研修会(4月27日、9月28日、2月28日)において、図書館職員によるブックトークを実施 ・「学校図書館ボランティアこんぺいとう」の本の修理講習会(7月10日)に職員を講師として派遣		
課題等	ボランティアとの協働事業の推進		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 6-(1) 調べる学習コンクールへの理解を学校の先生に広げる必要がある。
- 6-(1) 子どもたちの意欲を高める様々なイベントが計画的に実施されていることは評価できる。
- 6-(1) 「チャレンジ！調べる学習」、「読書感想文教室」などの開催は、防府図書館の特徴のひとつで評価できる。図書館職員にはかなり負担になると思うが、継続してほしい。
- 6-(1) 「局ノ内自治会」「西須賀保育所」などに出張して、絵本の読み聞かせを行うことは素晴らしい。今後も、図書館職員にはオーバーワークにならない程度に、出張講座、出張イベントを行ってほしい。
- 6-(1) おはなし会も定期的開催され良い。
- 6-(1) 「図書館を使った調べる学習コンクール」は上山満之進賞を含め、優秀な作品が応募されており、大変喜ばしい。
- 6-(1) 市内の全ての小・中学生が自由に抵抗なく図書館を利用できるように、小学校の社会見学時には図書館を入れてもらうようにするなど、図書館の見学・体験を充実させるとよい。
- 6-(2) 図書館職員の資質向上がみえるブックトークの継続を評価する。
- 6-(2) 中学生の図書館活動参加を促す図書館でのクラブ活動を期待したい。

7 障害者や高齢者に優しい図書館

(1) 障害者や高齢者が、気軽に楽しく簡単に利用できる図書館

R5年度 事業計画	①障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務 ・点字本・大活字本・音声資料・電子書籍等の整備・充実 ・視覚障害者用音声付インターネットサービス利用の促進		
事業実施 状況	①障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務 ・点字本・大活字本・音声資料・電子書籍等を収集・整備 ・郵送貸出、視覚障害者用音声付インターネット設備・電子図書館等のサービスを実施		
課題等	障害者や高齢者の電子図書館利用促進		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

(2) 視覚障害者や高齢者のための対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出などのサービスを、積極的に行う図書館

R5年度 事業計画	①対面朗読・音訳図書製作・郵送貸出等の業務 ・対面朗読・音訳図書製作・郵送貸出等のサービスの推進 ・「防府図書館ひなぎくネット」(国立国会図書館が制作・収集した音声デジター等の視覚障害者等用データ等を提供するサービス)の周知と利用促進		
事業実施 状況	①対面朗読・音訳図書製作・郵送貸出等の業務 ・対面朗読(0件)・郵送貸出(21件) ・「防府図書館ひなぎくネット」の周知と利用促進 ・郷土作家4名の著作を収めたカセット音訳テープをデジタルデータに変換、編集したうえで電子図書館の音声資料として順次登録中(当年度は山根基世氏の2作品を登録)		
課題等	障害者や高齢者のためのサービスの周知		
自己評価	カセット音訳テープのデジタル変換と電子図書館への登録	評価	A

(3)障害のある利用者のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館			
R5年度 事業計画	①障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務 ・ボランティア活動への支援 ・ボランティアによる施設・設備・資料等の活用の促進		
事業実施 状況	①障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務 ・ボランティア団体の会員募集の支援としてホームページへの掲載、チラシ・冊子の作成・配布を実施 ・ボランティア活動へ支援し、ボランティアによる施設・設備・資料等の提供		
課題等	次世代を担うボランティアの育成		
自己評価	概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】			
7 高齢者や障害者に優しい図書館として、とても充実してきた。今後もサービスのさらなる充実と周知の継続を望む。			
7 計画どおり実施されていて、十分な配慮がされている。パソコンが使える高齢者は、増えているので有効な方法をさがってほしい。			
7-(1) シニア層に向けて、電子図書館などの利用PRを積極的に行う必要があると感じる。			
7-(1) 図書館の位置や場所がわかりにくく利用しにくいのではないかと。ルルサス2階からの階段入口、図書館への導入案内、また階段にも図書館アピールの展示があるとよい。			
7-(1) 認知症関連など高齢者対象サービスの新企画スタートを望む。			
7-(2) 郷土作家4名の著作を収めたカセット音訳テープをデジタルデータに変換、編集したうえで電子図書館の音声資料として順次登録中など新たな取組を評価する。今後は、コンスタントに利活用されることを期待する。そのためには、広報が必須。			
7-(2) 前年度に引き続き、対面朗読や国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスの利用がなかったということだが、さらなる障害者や高齢者への周知を期待する。			
7-(2) 対面朗読、音訳などがされており、様々な方のニーズにそった取組が行われており評価できる。			
7-(3) インクルーシブな取組が広がることで、その社会の中で生活する子どもたちの意識も自然と高まる。			